

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日  
令和3年12月9日（木）
- 2 確認箇所
  - ・使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）
  - ・増設多核種除去設備
- 3 確認項目  
高性能容器スラリー移替えの準備作業の状況

### 4 確認結果の概要

多核種除去設備（以下「ALPS」という。）の汚染水処理に伴い発生した放射性物質を含む炭酸塩スラリー<sup>※1</sup>は、高性能容器（以下「HIC」という。）<sup>※2</sup>に收容して保管されており、このうち一定の放射線の照射を受けた高線量HICについては、強度を確保する観点から新たなHICへの移替え作業<sup>※3</sup>が増設ALPS建屋内で計画されている。

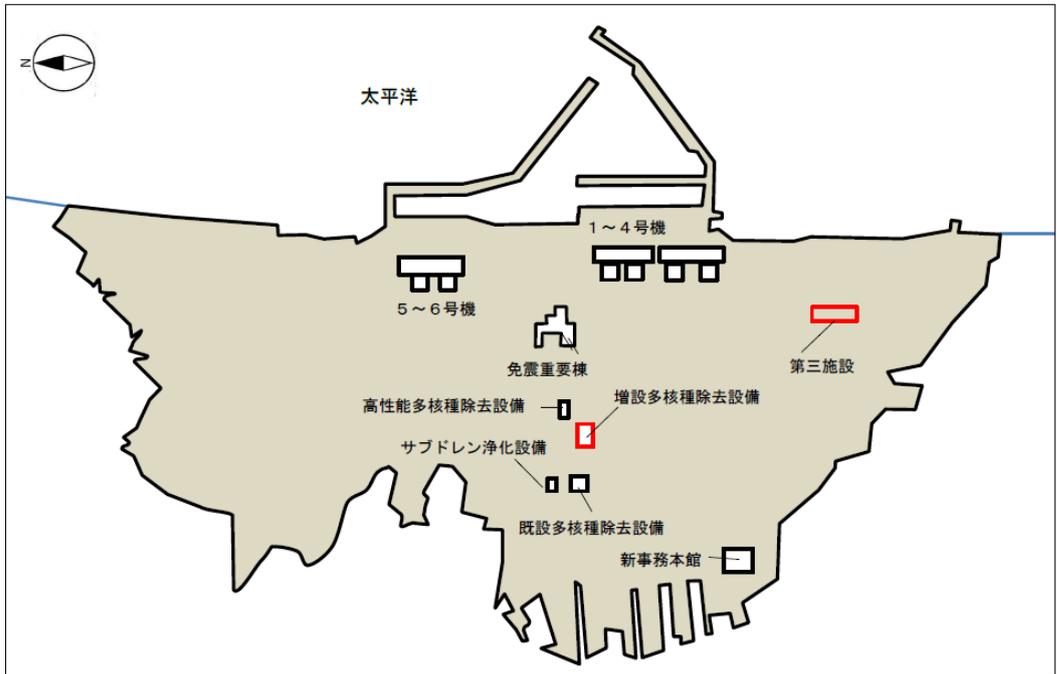
移替え作業は、低線量HICで作業手順や安全対策の確認を行いながら段階的に進めることとされており、9月28日に1基目の低線量HICの移替え作業が完了している。今回、2基目の低線量HICの移替え作業の準備が行われていることから、状況を確認した。（前回現場確認：[令和3年9月15日](#)）

- ・炭酸塩スラリーが入ったHICが保管されている敷地南側の使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）（以下「第三施設」という。）から増設ALPSに向けて、2基目の低線量HICの搬出作業が行われていた。（写真1）
- ・増設ALPS建屋内の移替え作業エリアには、作業時のダスト濃度を測定するための連続ダストモニタや局所排風機が準備されていた。（写真2）

※1 炭酸塩スラリー：前処理設備と吸着塔からなるALPSの処理工程のうち、前処理設備で吸着阻害物質（カルシウム、マグネシウムなど）を除去するために炭酸ソーダなどで薬剤処理することにより発生したスラリー

※2 高性能容器：ポリエチレン容器をステンレス鋼で補強した保管容器（HICは、High Integrity Containerの頭文字）

※3 HICスラリー移替え作業：炭酸塩スラリーによるβ線照射を受けたHICのうち、積算吸収線量5,000kGy（万一落下した場合においても構造健全性が確認できている積算吸収線量）を超えると評価された高線量HIC（31基）は、放射線劣化の観点から移し替えることが計画されている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)  
第三施設からのH I C搬出状況



(写真1-2)  
増設ALPS建屋への搬入状況



(写真 2 - 1)  
増設ALPS建屋内部の状況  
(移替え作業エリア付近)



(写真 2 - 2)  
連続ダストモニタの準備状況



(写真 2 - 3)  
局所排風機の準備状況

- 5 プラント関連パラメータ等確認  
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。